

生徒総会での発表 (H29.5.19)

5月19日(金)に行われた生徒総会で、副係長から全校生徒へアジアフ研修についての発表を行いました。

研修で学んだ内容をもとに、マリ共和国の現状や、アジアフ活動をする意味について伝え、全校でアジアフ活動について考えました。

発表内容(一部抜粋)

研修では、マザーランドアカデミーの代表の方から様々なお話をお聞きしました。特に印象に残っているのはマリ共和国に住む小さな子供の話です。スプーンに乗ったご飯をもらった子供が「ぼくはスプーン1杯の一口目が一番うれしいんだ」と言ったそうです。どうしてこんなことを言ったと思いますか。まだご飯がボールにいっぱい残っているから一口目が一番うれしいんだそうです。

日本では食べ物が十分にあるのは、当たり前になっています。ですが、マリ共和国では、まだ小さな子供がこのように言うくらい厳しい現状にあります。そんな中で私たちが全校で行っている、活動は現地の人々から本当に感謝されています。

どうして全校でやらなければいけないのか、やったらどんな意味があるのかという質問をよくいただきますが、マリ共和国の人々を助けるというのは、今、近くにいる友達や家族を助けることと変わりありません。これは人間としてこの世界に生きているなら、当たり前のことです。

33年間もの間、一回も休まずに活動している、旧北高校から続く岳陽高校のアジアフ活動には、とても大きな意味があります。

